

あいである REPORT

レポート

NO.3

児童養護施設退所後の見守り支援、アフターケアサポートとして、実家便®支援の活用を提案しています。
また、子どもの自立に向けた準備のためのお金の管理に関するレクチャー「マネークリップ」についてもご紹介しています。



『実家便』活用の「声」をご紹介します!



～「子持山学園」長島先生より～



「防災グッズとかレトルト食品とか助かるよ!」
「結構いろんなものが入って、あれ、いいよね!」
実家便が届くと卒園生から喜びに満ちた声が聞こえます。上から目線の物言いには、「おまえ…(汗)」と突っ込みを入れたいくなりますが…。
「支援」=「与える側・与えられる側」の構図がよざり、感謝しなさい!と言いたくなります。

ところが、あいであるさんの実家便は、フラットで親子関係にも似た温かい関係であり、親が離れて暮らす子を思って送り届ける小包みそのものなのです。

親への感謝の気持ちでなかなか言葉にできない、そんなものですよ。今はただ、小包みを受け取って心がほっこりしてくれたらそれでいい、いつかゆとりができれば、自分がしてもらったように恩返しや貢献の気持ちの一つでも実行に移せる大人になってほしいと願っています。

先日、付き合っている彼を連れて学園に遊びに来たSさんから、「来月、入籍することになったの!」と嬉しい報告がありました。彼の横でとっても穏やかで幸せそうなSさん。今まで前向きで居続けられたのは、彼女自身の努力というんな人の支えがあったから。その一つ、実家便も心の支えだったんじゃないかと思います。



今年度は、在園中の子どもたち向けに、社会の金銭感覚を身に付けるために考案された「マネークリップ」のレクチャーもお世話になりました。ゲーム感覚でリアルな日常の収支を仮想体験できるものです。

金銭計画の大切さを言葉で教えてもイメージが追いつかず、卒園後に大変な思いをする子どもも少なくありません。「受け身」ではなく、「参加型」で金銭感覚を体得していけるもので、この夏、子どもたちは楽しみながらレクチャーを受けていました。

インタビュー 『実家便』に、どのようなご感想・ご意見を持たれているのでしょうか?



双葉園 高木 千乃 先生

実家便が届くと、しばらく連絡を取っていなかった卒園生からも「届いたよ」「防災グッズとか自分で買ったことがないけどいろいろあるんだね…」「食品が多くて助かるよ」「ありがとう」など電話やメールが来ます。実感便についてのやり取りから、今やっていること、仕事や生活、友人・恋人や家族など人との関わりについての話に発展し、様子を知ることができ退所後の生活も共有できる大切な機会となっています。

日常の生活の流れのなかで、届いた贈り物に、ふと…過去を思い出したり、今もつながりがあること、また、世の中に思いを寄せてくださっている人がいることを感じてくれたらと思っています。

公益財団法人あいであるさんと結びつきから、実家便を通して、卒園生とのつながりにひとつの線(きっかけ)が増えました。そのひとつの線には、ボランティアさんも含めてたくさんの方がつながっています。目の前にはない見えないつながりに、支えてもらい力をもらっていることを卒園生や今いる子ども達と一緒に私たち職員も大切にしていきたいと思っています。

社会の厳しさのなかでも、孤独感ではなくつながりによる温かさを少しでも多く持ち、生き抜く力がよりたくましく育まれるように願っています。



女子グループ卒園生担当職員
太楽 豊 先生

退所後不安が多くある中、実家便がある事で少なくとも5年間はあいであるさんや双葉園とつながっているという安心感が生まれてくると思います。

職員も卒園してからの生活を知る機会となり、安心材料になっています。



女子グループ卒園生担当職員
細谷 千明 先生

実家便と一緒に職員からの手紙も届けて頂いていますが、電話や会って話すだけでなく、手紙で思いを伝えるつながりも大切だと感じています。一つひとつの思いが卒園生や職員の励みになっていると思います。



マリア園 中島 正和 先生

「卒園した子ども達に対して、学校や仕事で忙しいときでもすぐ食べられるよう簡易的な食事を用意してあげられたら」という思いで利用させていただきました。

支援を利用するにあたり、準備をする過程で子ども達一人一人に手紙を書いていると、子ども達がみんなのような生活を送っているのかとふと考えてつい私の方から連絡をしたり、実家便が届いたときには子ども達から私や担当していた職員に直接「(実家便)届いたよ」とメールや電話をしてくれます。子ども達からは、初回の非常用の日用品を見て「これは何に使うの?」と尋ねたり、「仕事で忙しくて助かる」と言った感謝の言葉も届いています。

一人暮らしや寮での生活を送る中で、きちんと食事を摂ることができているのか心配になることも多いですが、実家便があるおかげで心配も少し和らぎます。実家便の支援を通して、子ども達と連絡を取り合いながら一人ひとりが社会人として巣立っていく後押しができたと思います。



和進館児童ホーム 後藤 勉 先生

当施設では実家便をアフターケアのツールとし、子どもを担当していた職員が直接会って実家便を届けるようにしています。子どもとは電話やメールでのやりとりをしているのですが、機会がないとなかなか会うまでには至らず、半年に一度の実家便は子どもと会うきっかけを作ってくれています。

前回、実家便を届けた際、子どもと夕食を食べながら色々話をすることができました。施設で生活していた時の思い出や現状など、何気ない話をしていたのですが、帰り際になって子どもが「いや～、久しぶりにこんなに喋った!」と嬉しそうに言ってくれました。一人暮らしをしながら社会自立をしている子であっても、昔を知っている職員と会って顔を見ながら話すことが、息抜きになってくれるのだと改めて実感できました。

子どもたちは実家便を通して「誰かと繋がっていると感じられる」「自分のことを応援してくれる存在がいる」と感じることができ、本当に感謝しているとのことでした。

施設の支援だけでは至らない部分を補っていただけることに、職員一同心より感謝しております。そして、今後も多くの子どものもとに実家便が届くことを願っております。



お金の管理や、生活設計について学ぶレクチャー「マネークリップ」を行っています。

施設退所後に自活を始めて陥りやすいお金に関するトラブル

「マネークリップ」レクチャーは、カードを使ってシュミレーションを繰り返し行うことで、「お金のやりくり」「いざという時の出費に備える」というお金の使い方や管理を体験するゲームです。職員の皆さんが「マネークリップ」を体験し、子どもの自立に向け施設内でシュミレーションゲームとして取り入れていただいています。



財団のホームページに募集要項を掲載しています。

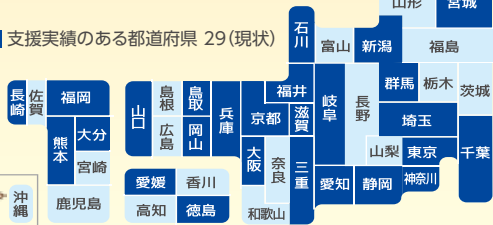
実家便の支援を受けている子どもからのメッセージ

- あちこちで災害があったりします。自分では何を意用していか分からなかったので、非常食など送っていただいていた本当に助かりました。実家便を送ってもらって、私たちはいろんな方に支えてもらって事が改めて分かりました。小さい時は施設が嫌でした。ですが今私は逆に施設で育って良かったと思います。私は育てて下さった方に感謝したいと思います。私もいつかそんな大人になれたらいいなと思います。(福祉施設調理員)
- 就職活動の準備を本格的に始め、学業、アルバイトに励んでいます。疲れて家に帰った際、ご飯を作るのが難しい時に簡単に食べられるものを送って頂いて助かっています。また、施設からの手紙も添えてもらって元気がです。(大学3年生)
- 課題やテストなどに追われ忙しい毎日ですが、日々新しい知識を学び深めることができ、充実した学生生活を送っています。防災用品や、お米、レトルト食品などバラエティー豊かな食品を頂けて、一人暮らしで栄養が偏りがちなのでごく助かっています。美味しいものを食べることで、毎日学校に頑張ってる通おうという気持ちになり、精神面でも支えていただいていると実感しており、とても感謝しています。(大学2年生)
- 毎日健康で過ごせていて、不自由のない生活をさせてもらっています。あいであるさんからの実家便のおかげで、災害がいつ起きてもおかしくない今日、とても心強い品物をいただき感謝しています。これから、あいであるさんの活動などを陰ながら応援できたらなと思いました。(フリーター)

活動の状況

実績

実家便の実施県に、千葉、京都、兵庫、愛媛、熊本県が加わりました。



※ 財団法人あいであるの実家便™支援 ※

実家便™を商標として登録しました。



公益財団法人 あいである

〒108-0014 東京都港区芝5-5-1 ラウンドクロス三田4F